

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：33916

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12141

研究課題名（和文）学習困難学生に対する自己調整学習方略を用いた看護技術修得プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a Nursing Skills Acquisition Program Using Self-Regulated Learning Strategy for Students with Learning Difficulties

研究代表者

三吉 友美子 (Miyoshi, Yumiko)

藤田医科大学・保健学研究科・教授

研究者番号：40329701

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：教育心理学分野で研究がすすんでいる「自己調整学習」の理論を、看護技術教育に取り入れ、看護技術を効率的に修得するためのプログラムの開発をめざした。研究期間内にプログラムの提案までには至らなかったが、自己調整学習理論に基づく「看護技術学習方略尺度」を誰もが使用できるようにWeb上に提示した。その回答結果は即座に回答者にフィードバックされ、過去の回答からの変化を可視化できるため、効果的な学習方略を身に着けるための支援ツールとしての活用が期待できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護実践力の中核をなす看護技術を学生が修得できるように支援することは、看護基礎教育の中心課題といえる。看護技術の修得に繋がると考えられる看護技術学習方略を測定する尺度（看護技術学習方略尺度）を用いた複数の調査を実施することにより、使用可能性を検討するための基礎資料を提示した。その上で、学習支援ツールとして、「看護技術学習方略尺度」Web版を作成した。これにより、誰もがいつでも手軽に自分の看護技術の学び方を振り返ることができ、経時的にその変化を把握できる。このツールを利用した研究を積み重ねることが、看護技術修得の困難事例に対する問題解決につながると考える。

研究成果の概要（英文）：We aimed to develop an program for efficient acquisition of nursing skills by incorporating the theory of "self-regulated learning," which has been researched in the field of educational psychology, into nursing skills education. Although we were not able to propose an program within the research period, we presented the "Nursing Skills Learning Strategy Scale" based on the theory of self-regulated learning on the Web so that anyone could use it. The results of the responses are immediately fed back to the respondents, and the changes from previous responses can be visualized, so the scale is expected to be used as a support tool for learning effective learning strategies.

研究分野：看護教育学

キーワード：学習方略 自己調整学習 看護技術学習方略

## 1. 研究開始当初の背景

看護実践力の中核となる看護技術の修得は、学生時代のみならず看護師になってからも求められる学習課題である。しかし、その学習課題の到達を示す看護技術の修得状況は学習者により個人差がみられ、修得に困難をきたす学習者が存在する。看護技術を修得するためには授業や研修時間以外の自己学習が不可欠であることから、学習者の学び方に着目した。

教育心理学分野では、学び方を「学習方略」という概念で「自己調整学習」理論の中で研究されており、学習方略が学習成果に影響することが明らかになっている。その研究成果を看護学教育分野に取り入れて考えると、看護技術の自己学習において学習者が用いる学習方略が学習成果である看護技術の修得状況に影響すると推察される。そこで、申請者は看護技術の学習方略を測定するための尺度として自己調整学習の考えに基づく「看護技術学習方略尺度」を開発した(三吉・細田, 2015)。しかし、その尺度を使用した研究はすすんでいないことから、その使用可能性を確認する必要がある。その上で、看護技術学習方略尺度を用いた学習支援の可能性を検討する。

## 2. 研究の目的

本研究では、申請者が作成した看護技術学習方略尺度の信頼性・妥当性を確認した上で、学習困難学生に対する看護技術修得支援プログラムを開発し効果を検証することを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 使用可能性の検討のための基礎資料となる「看護技術学習方略尺度」を用いた研究

「看護技術学習方略尺度を用いた複数の調査を実施したが、論文として結果が公表されている2つの調査について方法を述べる。

調査1：調査期間：2017年5月～8月。調査方法：無記名の自記式質問紙を用いた郵送調査。調査対象者：全国の看護系大学から無作為に抽出した45大学に調査を依頼し、承諾の得られた12大学に在籍する3年次生947名。調査内容：4下位尺度17項目からなる看護技術学習方略尺度(得点範囲：1.00点～6.00点)と、看護技術の修得(40項目)。分析方法：重回帰分析により調査内容間の関係を分析した。

調査2：調査期間：2021年7月。調査方法：紙媒体もしくはWebによる無記名の質問紙調査。調査対象者：東海地方の看護系大学5校に在籍する1・2年次生824名(入学後の全期間をコロナ禍で過ごしている)。調査内容：看護技術学習方略尺度。

(2) 学習支援に用いる「看護技術学習方略尺度」Web版の作成

学習困難学生に対する看護技術修得支援プログラムの開発にいたる前段階として、学習支援に用いるためのツールを作成した。Web上で「看護技術学習方略尺度」に回答できるシステムを作成した。

## 4. 研究成果

(1) 「看護技術学習方略尺度」を使用した研究

「2. 研究方法」で述べた2つの調査の結果を述べる。

調査1：有効回答数は119であった。看護技術学習方略尺度得点は4.19点であり、下位尺度では〔認知的方略〕が4.50点、〔ピア学習〕4.49点と高かった。最小値は〔情動調整〕が全く使用しないにあたる1.00点であった。看護技術学習方略は看護技術の修得に有意な影響( $r = .347$ )を示し、下位尺度では〔情動調整〕に有意な影響( $r = .388$ )があった。

調査2：465名を分析対象とした(回収率58.0%、有効回答率97.3%)。看護技術学習方略尺度得点の中央値は4.24点、最小値は1.12点、最大値は6.00点であった。下位尺度得点の中央値は4.00～4.50点、最大値は全て6.00点、最小値は〔計画・調整〕が1.25点、〔認知的志向〕〔ピア学習〕〔情動調整〕が1.00点であった。学年別の看護技術学習方略尺度得点の中央値は、1年生が4.18点、2年生が4.29点であり、有意差はなかった。

(2) 学習支援に用いる「看護技術学習方略尺度」Web版の作成

Web上で「看護技術学習方略尺度」に回答できるシステムを作成した(URL：<http://www.nsls-srls.jp/kangoWebQ/start.html?v=20230616195405>)。これにより、自己調整学習にもとづく「看護技術学習方略尺度」を誰もがどこでも使用できるようになった。回答結果は即座に回答者にフィードバックされ、過去の回答からの変化を可視化できるため、効果的な学習方略を身に着けるための支援ツールとしての活用が期待できる。

引用文献：

三吉 友美子、細田 泰子、看護技術学習方略尺度の開発 信頼性・妥当性の検討、日本看護学教育学会誌・2015、24(3)、1-11

奥野友紀、三吉友美子、皆川敦子、世古留美 .看護技術学修方略が看護技術の修得へ与える影響、日本ヒューマンヘルスケア学会誌 . 6(2)、2021、51-60 (調査1)

奥野友紀、川村真紀子、加藤治実、小園千草、平賀元美、三吉友美子、コロナ禍における看護学生の看護技術学習方略の実態、医学と生物学(Medicine and Biology)、163(2)、2023、i2\_0j02、1-10 (調査2)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>奥野友紀、三吉友美子、皆川敦子、世古留美         | 4. 巻<br>6(2)        |
| 2. 論文標題<br>看護技術学習方略が看護技術の修得へ与える影響      | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>日本ヒューマンヘルスケア学会誌              | 6. 最初と最後の頁<br>51-60 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>奥野友紀、川村真紀子、加藤治実、小園千草、平賀元美、三吉友美子 | 4. 巻<br>163(2)     |
| 2. 論文標題<br>コロナ禍における看護学生の看護技術学習方略の実際       | 5. 発行年<br>2023年    |
| 3. 雑誌名<br>医学と生物学 (Medicine and Biology)   | 6. 最初と最後の頁<br>1-10 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし             | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）     | 国際共著<br>-          |

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Makiko Kawamura , Yuki Okuno , Yumiko Miyoshi , Harumi Kato  |
| 2. 発表標題<br>Association of Nursing Skills Learning Strategies With Acquisition or Blood Pressure Measurement Skills: 2020 Survey |
| 3. 学会等名<br>26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2023年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Yuki Okuno, Makiko Kawamura, Harumi Kato, Chigusa Kozono, Motomi Hiraga, Yumiko Miyoshi |
| 2. 発表標題<br>Grade Level Trends in Nursing Skills Learning Strategies of University Nursing Students |
| 3. 学会等名<br>WANS (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Yuki Okuno, Makiko Kawamura, Harumi Kato, Chigusa Kozono, Motomi Hiraga, Yumiko Miyoshi         |
| 2. 発表標題<br>Nursing Skills Learning Strategies for University Nursing Students during The COVID-19 Pandemic |
| 3. 学会等名<br>25th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>川村真紀子、奥野友紀、三吉友美子                 |
| 2. 発表標題<br>看護系大学生が使用する看護技術学習方略と血圧測定技術修得との関連 |
| 3. 学会等名<br>第5回 日本ヒューマンヘルスケア学会学術集会           |
| 4. 発表年<br>2022年                             |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)      | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|-------|--------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 奥野 友紀<br><br>(Okuno Yuki)      |                       |    |
| 研究協力者 | 川村 真紀子<br><br>(Kwamura Makiko) |                       |    |
| 研究協力者 | 加藤 治実<br><br>(Kato Harumi)     |                       |    |

6. 研究組織（つづき）

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)     | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|-------|-------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 平賀 元美<br><br>(Hiraga Motomi)  |                       |    |
| 研究協力者 | 小園 千草<br><br>(Kozono Chigusa) |                       |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|         |         |